

1 研究の概要

■調査研究委員会活動方針

これからの社会は、society5.0の実現に向けて急速に変化するとともに、グローバル化・少子高齢化・人口減少社会を迎え、労働構造も大きく変わっていくことになる。また、新型コロナウイルス感染症が完全に消滅することはないという状況であり、新しい生活様式による対応も今後も続くこと予想がされる。

このような激しく変化する社会の中で、小学校教育においては、持続可能な社会の担い手の育成が求められている。子どもたちの新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけるために、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力や人間性」といった三つの力をバランスよく育む教育を実現していかなければならない。

さらに小学校では、英語教育の拡充・強化や「GIGAスクール構想」の推進によるグローバル化に対応できる人材の育成、いじめ等問題行動の防止に向けた人権教育と道徳の教科化、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など対応すべき重要課題が山積している。

このような状況の中、本県においても「一人一人の個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり～子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」を基本理念とする新たな「福井県教育振興基本計画」が策定され、ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え行動する力を育む教育が求められている。

県内各小学校において、校長は現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果をあげていかなければならない。

本委員会でも今日的な学校教育の課題、学校経営上の諸問題など社会の変化に即応した学校の取組について調査研究し、対策に資することとする。

■調査研究内容

- 1 全国連合小学校長会令和3年度研究紀要より項目を抜粋して調査研究を行う。令和4年度福井県のデータと、令和3年度における福井県のデータならびに全国連合小学校長会「研究紀要」のデータを比較した調査研究を行う。
- 2 会員からの要望による調査項目について、追加して調査研究を行う。
- 3 福井県全体の調査研究をもとに、各郡市の課題や諸問題について調査研究を行う。

■調査研究テーマ

「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割」

■調査項目

- 1 県民の信託に応える小学校教育の在り方や学校評価の在り方に関する課題
- 2 教員の資質・能力の向上と子どもと向き合う環境づくりに関する課題
- 3 少人数学級の推進，外国語科・外国語活動や特別の教科道徳への対応など，新たな教育改革・教育施策に関する諸課題
- 4 教育課程の編成や学習評価の改善に関する課題
- 5 管理職の職能に関する課題
- 6 特別支援教育の推進に関する課題
- 7 児童の問題行動などに対する生徒指導推進上の課題
- 8 新型コロナウイルスに関する今後の取組
- 9 今日的な課題に即応した学校づくりに関する課題

■調査対象・方法

- 1 調査対象 福井県全小学校 184校 [国立1校・市町立183校]
- 2 調査期間 令和4年6月10日～7月1日
- 3 調査方法 質問紙による回答 [各設問の選択数は、全国連合小学校長会調査と同数]